

(案)

平成28年度 市政モニター会議 提言書

平成28年度市政モニター会議では、根室市の抱える課題、そしてその解決に向けて全4回にわたり協議を重ね、これからのまちづくりと、より良い市政運営のために3つのテーマに基づき、提言をまとめました。

テーマ1. 活力あるまちをつくるために必要な取組み

○ 一次産業を活かした観光振興

交流人口を増やす手段のひとつとして、市としても民間牧場と連携した酪農体験や漁協等と連携した市場のセリ見学、漁業者宅への民泊といった体験型の観光を推進していただきたい。

○ 新体育館の建設

総合体育館建設基金が創設され、整備市民委員会による検討が始まっている新体育館の建設にあたっては、整備市民委員会の意見をもとに、スポーツ団体・選手の誘致にも繋がるような施設となるよう、取り組みを進めていただきたい。

テーマ2. 安心して暮らせるまちをつくるために必要な取組み

○ 地域の拠点病院としての取組み

市民が安心して暮らすためには医療の充実が不可欠であることから、市立根室病院においては、引き続き医師の確保に努め、市民の健康を守るための良質な医療を提供していただきたい。

○ 健康づくりの推進

医療を充実させるという考え方を転換し、逆に健康づくりを推進して、できるだけ病院にかからなくとも、健康的な生活を送れるよう、既存の枠にとらわれない健康づくり事業に取り組んでいただきたい。

○ 教育水準の向上

将来の根室を担う人材を育成するために、さらなる小中高生の学力レベルの底上げ対策を推進していただきたい。

テーマ３．市民が知らない根室の魅力を発信するために必要な取り組み

○ 世界に向けた根室の魅力発信

市観光協会が実施する野鳥観光ビジネススクールの他にも、市として英語を話せる専門ガイドの養成に力を入れ、英語力、コミュニケーション力の強化を図り、世界各国に根室の魅力をアピールできる人材を育成していただきたい。

○ ボランティアガイドの育成

英語教育の一環として市内中高生が外国人観光客のガイド補助を行ったり、市民ガイドを育成する成人学校の開催や根室独自の公認ガイド制度を創設するなど、地域の人しか知らない情報を提供できるよう市民が積極的に観光に参加できる環境を整備していただきたい。

○ 郷土愛の醸成

子どもたちに根室の魅力を伝えるために、現在実施している子供会リーダー研修の内容を充実させるなど、子どもと大人の結びつきを増やし、子どもレンジャーのような子どものころから自然に親しむことのできる仕組みづくりや通年または複数年にわたる幼少期からの特色ある自然学習を推進していただきたい。

○ 市民への根室に関する知識の浸透

根室の魅力について、市民が改めて理解する必要があることから、学芸員などの専門知識を市民に伝える場を充実させ、根室の文化や歴史、自然に精通した人材を育成していただきたい。

さいごに

今回の市政モニター会議では、各モニターから多岐にわたり意見が出されましたが、その根幹にあるものは、まちづくりの主役である市民であり、最も重要なことは、その市民の意識をいかにして変えていくかということでモニターの意見が一致したところであります。

会議の中で若者は根室に魅力を感じていないという意見が多く出ましたが、故郷根室を誇りに思える子どもを育てるためには、大人も根室が持つ魅力をしっかりと理解したうえで、市民全体の郷土愛を醸成する必要があります。

大人から子どもまでが、故郷根室を誇りに思えるよう意識の改革を図るとともに、根室のことを誇りに思える人を育てる取組みを推進いただくことを期待し、平成２８年度市政モニター会議としての提言といたします。